

出品作家

生島国宜
Ixima Kuniyosi
天野百恵
Amano Moe
加藤笑平
Kato Showhey
國盛麻衣佳
Kunimori Maika

九州芸文館
芸術文化交流拠点性発揮事業
筑後アート往来
CHIKUGO ART TRAFFIC
2017-2018



藝術生活宣言

—だって
楽しいんだもん!

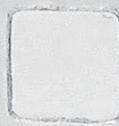
2018 2.11日(祝) → 3.11日

※月曜休館 [ただし2/12(月・休)開館、翌2/13(火)休館]

九州芸文館 10:00-17:00

入場
無料

主催：九州芸文館芸術文化交流拠点性発揮実行委員会
(福岡県、筑後市、九州芸文館、筑後市美術協会、筑後市観光協会)
本展キュレーター：関岡絵梨花(福岡県文化振興課学芸員)
本展アシスタント：石原雅也(佐賀大学大学院地域デザイン研究科)
コーディネーター：宮本初音(ART BASE 88)
協力：安達建設株式会社、新庄良博(敬称略、順不同)
広報デザイン：クルール
お問合せ：九州芸文館 〒833-0015 福岡県筑後市大字津島1131
TEL 0942-52-6435 <http://www.kyushu-geibun.jp>



九州芸文館芸術文化交流拠点性発揮事業
筑後アート往来 2017-2018
CHIKUGO ART TRAFFIC

アーティスト・イン・レジデンス事業
釜山からのレジデンスアーティストによる展覧会

ビョン・ジェギユウ展 残骸のための哀歌： クスノキ林

2018 2.11日(祝) → 3.11日

※月曜休館 [ただし2/12(月・休)開館、翌2/13(火)休館]

九州芸文館 10:00-17:00 入場無料

主催：九州芸文館芸術文化交流拠点性発揮実行委員会
(福岡県、筑後市、九州芸文館、筑後市美術協会、筑後市観光協会)
レジデンスコーディネーター：シム・ウヒョン(九州産業大学造形短期大学部)
ディレクター：宮本初音(ART BASE 88)
協力：釜山文化財団、MEIJIKAN、WATAGATA Arts Network、久良木 壽啓・久良木 一女 ほか
広報デザイン：クルール(敬称略、順不同)
お問合せ：九州芸文館 〒833-0015 福岡県筑後市大字津島1131
TEL 0942-52-6435 <http://www.kyushu-geibun.jp>



「筑後アート往来」は、九州芸文館における芸術文化交流拠点性
発揮事業として2015年(平成27年)から開催されています。
今年度は福岡と釜山のアーティスト交換滞在事業と地元の若手
アーティストグループ展を開催いたします。

Elegy for the Remains:
Cinamomum camphora,
mixture, 2017

Jaekyu Byun from Busan, KOREA



同時開催

Nomi Kikuko Document
in Hongji Art Center in Busan, 2017

乃美希久子
釜山ホンディアートセンター
レジデンス記録展



ビョン・ジェギユウ展 「残骸のための哀歌：クスノキ林」

Jaekyu Byun

卞在奎/ビョン・ジェギユウ

ビョン・ジェギユウは韓国釜山を拠点に活動するアーティストおよび研究者で、実験映像のインスタレーションなどを制作する。今回は釜山文化財団の推薦により九州芸文館にて滞在制作をおこなう。自然と人工の融合をテーマにした新作を発表。



「自然が人間より先なのか？或は、人間が自然より先なのか？私たち人間は、自らが作り出した、社会的メカニズムの環境に置かれており、ますますそれを具体化していく。そして自然の意味が、なんであるのかは、まだ知ることができない。」
矢部川のクスノキ林で、冬になって自然に落ちてくる木の落葉を集めた。この落葉は葉肉をとって葉脈だけを残す過程を経て、映画を記録するように落葉をフィルムに貼付けていく。人間は自然を生態系と呼ばれるメカニズムから理解しようとする。この作品は、自然の一部を映画の(cinematic)メカニズムから見てきたものであり、自然を理解しようとする実験である。



今回の滞在制作展は、福岡と筑後市にお住まいの多くの方々の配慮と激励によって可能になったと思います。展示までの進行や滞在環境についてもたくさんのご協力のおかげで、全く不便なく、落ち着いた環境で素早く結果を展示する事が出来ました。特に今回の作品制作にはいつも暖かく見守ってくださった久良木さんご夫妻に心より感謝申し上げます。

1975年韓国釜山生まれ、釜山在住。日本の京都精華大学でも映像を学んだ。主に実験映像インスタレーションを制作。最近では映画装置と知覚的メカニズムの関係をテーマに制作。個展は2011年 Space Banded (釜山)での「Light Cone」など4回、近年の企画展では2014年ロンドン韓国文化院、2013年韓国国立現代美術館開館企画展、同年ソウル国際ニューメディアフェスティバルなど。受賞歴に2011年釜山青年美術賞、2006年学生映像コンテスト BACA-JA (バカジャ) でグランプリ、ソウル国際実験映画祭でKT&Gサンサンマダン賞など。

乃美希久子 釜山ホントアートセンター レジデンス 記録展

Nomi Kikuko

乃美希久子

乃美希久子(のみ・きくこ)は福岡を拠点に活動するアーティストで、2017年9月~11月に釜山のホントアートセンターにてレジデンスをおこなった。滞在中の記録と制作した作品に関するドキュメント展示を、ビョン・ジェギユウ展と同時期に開催する。



一往來で426km、七往來すると2982km、福岡市からたった213km、されど213kmの初めての韓国、釜山ホントアートセンターへ滞在した記録です。

1978年熊本県生まれ
◎個展(抜粋)
2016「Nomi Kikuko Exhibition」Calamari Inc., 福岡
2005「Project for actual art 004」art space tetra, 福岡
2004 アートの現場・福岡VOL.16「空き家」福岡県立美術館
2003「寝床」MODERN ART BANK WALD, 福岡
◎主なグループ展
2006「愉しき家」愛知県立美術館
2005「FISSION PRODUCTS」FUTURE PROSPECTS, フィリピン
2005「倉敷現代アートビエンナーレ・西日本」加計美術館, 岡山
2005「Aesthetics/Dietetics」ベルガモ近代美術館, イタリア
◎アーティストインレジデンス
2017 ホントアートセンター, 釜山, 韓国

藝術生活

—だって楽しいんだもん!

福岡県筑後地域において国内外の様々な芸術家による作品創作・展示・交流を行うプロジェクト「筑後アート往来」。

本展では、人、地域、自然と関わりながら、しなやかに力強く藝術生活を営む4人のアーティストの活動を紹介します。少しの工夫で私たちの生活を楽しくする術とは!?

生島国宜は筑後の人々が見た夢のインタビューを基に絵画を制作し、天野百恵は自身が運営する自宅兼アートスペース「くるくるハイツ」での活動をインスタレーション(空間芸術)として表します。また、加藤笑平は筑後地域の川を巡り、そこに暮らす人々の根源的な営みに迫る作品を制作し、國盛麻衣佳は自身の出身地である大牟田市の炭鉱の歴史をテーマに作品を制作します。九州芸文館を舞台に新鋭現代美術家4人が繰り広げるアートをお楽しみください。

*作品写真は参考作品です。実際の展示作品とは異なります



1980年福岡県春日市生まれ/筑紫郡在住。画家。2003年武蔵野美術大学油絵学科卒業。クリスチャン・ディオールや日本の舞踏家など、実在する人物の顔や姿を多面的に捉え、様々なタッチで描く。主な個展は2014年「生島国宜展」(ミヤケファインアート/東京)、2017年「生島国宜新作展」(ヤマネアートラボ/福岡)など。2015年「IN COLLECTION」(テセウスの船-鏡のあちらこちら)「アートベース百島/広島」に参加。イベントなどの企画も手がけ、2015年「顔を透かして見る夜」(FACTORY UNVELASHU/福岡)では音楽家やパフォーマーを集めたライブを行う。
<http://iximakuniyoshi.blogspot.jp/>



《遠い山並みの光》2017年



1983年東京都葛飾区生まれ/福岡市在住。美術家。2002年東京都立八王子工業高等学校応用デザイン科卒。2005年より九州を拠点として、自ら農耕・塩づくりを行いつつ、熊本で「天草在郷美術館」を設立する。絵画・インスタレーション・パフォーマンスといった作品を同時に展開し、相反するものが共存している日常の状態を形にする。主な個展は2015年「頂がみえない」(IAF SHOP*/福岡)、2017年「川の交わり/小さい時の井戸の感覚」(福岡アジア美術館/福岡)など。2011年「1枚の絵の力 Power of a Painting」(3331 Arts Chiyoda/東京)などのグループ展に参加。
<https://showheyhot.wordpress.com>



《小さい時の井戸の感覚》2017年



1982年福岡県福岡市生まれ/糸島市在住。美術家。2004年九州産業大学芸術学部美術学科卒業。2010年の出産を期に、クリエイティブな暮らし方を考える活動を始める。2017年に糸島の古民家「くるくるハイツ」を拠点として子どもと3人で暮らし始め、「開かれた田舎の家」をテーマに場づくりを行っている。主な個展は2010年「かすみたつやわらかい雨」(ギャラリー16/京都)、2011年「空を集める」-seek the sky- (うめぞのCAFE&GALLERY/京都)など。グループ展は2011年「激凸展」(unseal contemporary/東京)に参加。
<http://moema.net>



「くるくるハイツ」でのイベント風景 2017年



《「空を集める」-seek the sky-》展示風景 2011年



1986年福岡県大牟田市生まれ/大牟田市在住。美術家。2017年九州大学大学院芸術工学部芸術工学専攻にて博士号取得。炭鉱をテーマとし、「COAL PAINT (コールペイント/炭鉱地で採取した石炭、石灰灰を原料としたオリジナルの絵の具)」を用いた作品制作やワークショップなどを行う。近年の活動は炭鉱と文化に関する講演、まち歩き、ワークショップを2017年「JOBAN ARTMINE -アートで掘り出す黒ダイヤ-」(福島)で開催。主な個展は2011年「be with underground」(銀座gallery女子美/東京)、2012年「miner's life」(コバヤシ画廊/東京)など。



《Coalmine Portrait 01》2010年

オープニングイベント

2月11日(日・祝) 会場:大交流室

参加無料
申込不要

- ①出品作家によるギャラリートゥアー 10:15~(約1時間) 展示会場をまわりながら、出品作家による作品解説をお楽しみいただけます。
- ②ワークショップ「船小屋鉱泉の絵の具で手を描こう」 時間:「①ギャラリートゥアー」國盛麻衣佳のトーク中から随時 筑後船小屋の鉱泉の成分から作った絵の具を使って、手を描きます。 講師:國盛麻衣佳(美術家) 対象:子ども~大人
- ③加藤笑平パフォーマンス「close for them in our openmind at the river's edge.」 15:00~

「アートを味わう鑑賞ツアー」

展示会場内や館内の常設アート作品を味わう鑑賞ツアーを行います。

3月3日(土) 14:00~15:00 会場:大交流室、館内 講師:天野百恵(美術家) 定員:15名 対象:子ども~大人

くるくるハイツ「出張オープンミーティング」

天野百恵が「くるくるハイツ」で定期的に行っている開かれたミーティングを九州芸文館で開催! 場づくりってなんだろう?

3月4日(日) 14:00~15:00 会場:大交流室 講師:天野百恵(美術家) 定員:15名 対象:子ども~大人

参加無料
申込不要

参加無料
申込不要

筑後船小屋まち歩きツアー

ガイドによる解説のもと、筑後船小屋(筑後市)を散策します。

3月10日(土) 13:00~16:00
ガイド:安西司(九州芸文館)、國盛麻衣佳(美術家)
集合:大交流室/解散:川の駅船小屋 恋ぼたる/散策地:筑後船小屋周辺 定員:20名(先着順)
対象:小学校高学年~大人(小学生は保護者同伴)
(申込締切り)3月8日(木)
※定員になり次第締め切らせていただきます。
※歩きやすい服装・靴でお越しください。
※雨天決行、悪天候の場合は中止することがあります。

参加無料
要申込

クロージングイベント

3月11日(日) 10:00~17:00 会場:大交流室

- ①クロージングパーティー 音楽を聴いたり、楽しくおしゃべりをしながら、作品鑑賞をしませんか。この日はDJがやります! 企画:生島国宜(画家) 参加費:大人1,500円(申込不要)
- ②加藤笑平パフォーマンス「open to outside into bridge someone wide and flow.」(仮)

九州芸文館 筑後広域公園芸術文化交流施設 九州芸文館 福岡県筑後市大字津島1131

- [JR] 九州新幹線筑後船小屋駅下車(徒歩約1分) JR鹿児島本線筑後船小屋駅下車(徒歩約1分)
- [バス] 西鉄バス50番(久留米-船小屋) 筑後船小屋駅前下車(徒歩約1分)
- [車] 九州自動車道八女インター下車(インターから約10分) みみや柳川インター下車(インターから約15分) 駐車場あり:総収容台数103台(車椅子用スペース3台含む) 2時間無料(以降1時間毎に100円) 営業時間8:30~21:30(休館日は利用不可)



関連イベント